

学院標語「敬神奉仕」が 学校全体の中に息づき 生徒に行動変容を促す

都内有数のミッションスクールとして知られる東洋英和女学院中学部高等部。学院標語「敬神奉仕」が生徒一人ひとりの中に醸成され、「誰かのために」「自ら行動を起こす生徒がとても多い。この標語がどのようにして、自分のもの」として生徒に伝わっていくのか。そして生徒たちはその言葉をどう捉え、どのように行動につなげていくのか。石澤友康部長（校長と、実際に行動を起こした生徒たちに話を聞いてみた。

日常の中に浸透していく 聖書からのメッセージ

多くの学校には建学の精神や校訓があるが、それらが日常生活の中に垣間見られることはあまり多くない。しかし東洋英和の学院標語「敬神奉仕」は違う。

「学校のなかで生きている標語です。どの年代の卒業生に聞いても必ずこの4文字を言うことができます。これは私立学校としていちばん大事なことだと思っています」と石澤友康部長は語る。

毎朝必ず行われる礼拝や、式典などの場で、この標語に込められた精神が、聖書の言葉を通してメッセージとして繰り返し伝えられる。「隣人を、世の人を助けるように、自分を使いなさい」と、生徒たちは「耳にたこができるほど聞く」（石澤部長）のだという。しかもその語順が大切に、最初に「敬神」があり、次に「奉仕」が続くことに意味がある。

「自分が正しいと思って人に奉仕するのは、自分の正義でしかありません。どの国の指導者も自分が正しいと思っています。しかし、それは人間のなかでの価値ですから揺らぎます。神に与えられた言葉や生き方という絶対的な縦軸があつてこそ、奉仕は普遍的な意味を持つのです。自国中心主義が世界的に広がる今だからこそ、重みを持って伝わる言葉だと思います」（石澤部長）

**先輩の背中を見て育ち
やがて「私の番」になる**

もちろん、中学1年で入学したばかりの生徒には標語の意味はよくわから

ない。礼拝で聖書の言葉を聞いても、最初はピンとこないはずだ。それが6年間でどう変容していくのか。

「先輩たちの姿を実際に見て、徐々に積み重ねていく。そういうことだと思っています」と石澤部長は話し、次のような象徴的なエピソードを紹介してくれた。

雨の日、傘を持たずに駅で途方に暮れていた後輩に、先輩が「一緒に行く」と傘を差し出した。ただそれだけのことだが、その時後輩の生徒はこう思ったという。「今度は私の番だ」と。

「本当に小さなことです。でも、それが1番大きいと思います」（石澤部長）

それはやがて、ジャージや水着を後輩のためにデザインして自分たちは着ずに卒業していく生徒たちへと受け継がれ、児童労働問題の改善を目指すフェアトレードプロジェクトを立ち上げる生徒たちへと、次々に引き継がれていく。

「どの教員も、そうした生徒たちの発意や行動を妨げないように、上手にファシリテートできるように気をつけています。それが数字には表れない本校のすごいところだと思います」（石澤部長）

標語の精神は卒業後も生き続ける。外資系証券会社でトレーダーとして高収入を得ていた卒業生が、ある日突然退職し、恵まれない子どもたちのため



部長
石澤 友康 先生

の社会起業家に転身する、あるいはテレビ局のアナウンサーを辞めて海外に福祉を学びに行く…。こうした例が少なくないという。

「教育は100年の計です。その子が成長するということに時間をかけ、期待し、信じる。それが大事であり、学校の使命だと思います」（石澤部長）

卒業生の進路が多岐にわたることも同校の大きな特色だが、それも「誰かのために」「自ら行動しようとした結果であり、学院標語「敬神奉仕」が、先輩から後輩へと世代を越えて受け継がれてきた証の一つといえるのだろう。

大きなことでなくていい 仲間のためにできることを

ここからは、高等部1年の清水真歩さんと江原美玲さんに話を聞いた。

* * *

清水 どんな活動をしているのですか。

中1から3年間立候補し続けているので地図を作って歩んでほしいという意味を込めました。

活動を通じて、自分自身が成長したと感じることを教えてください。

清水 「すぐ動く」ことが身についたと思います。中3の委員長那时的反省から、気になったらすぐに関係者に会いに行き、先生方にもすぐに確認を取るようになっていたため、職員室の常連と言われています（笑）。また、独りがりにならないよう、常にメンバーの意見を聞きながら進めることも意識しています。

江原 意見のまとめ方が変わったと感じています。小学生の頃は自分の考えを押し通そうとする傾向がありました。が、今回は複数の意見をぶつけ合い、そこから新たな案を生み出すことを大切にしました。意識して変えたというよりも、みんなの意見をまとめていくなかで自然にスタイルが変わっていったように思います。



高等部1年
江原 美玲 さん

先として、シングルマザー支援団体を念頭に置いており、現在いくつかの団体と協議中です。

—— シングルマザー支援への関心は、どこから生まれたのですか。

清水 中3の政治の授業で、女性の賃金格差や機会格差について学んだことが大きかったです。今まではどこか他人事と捉えていましたが、女性として将来を考えた時にその問題が身近に感じられ、社会にアプローチしなければならぬと考えようになりました。

—— 江原さんが委員長を務めたカンファレンスとは、どのような行事ですか。

江原 高1全員を対象に1泊2日で行われる、自分自身と静かに向き合うことを目的とした行事です。今年は千葉県木更津市のホテルで開催しました。牧師の先



高等部1年
清水 真歩 さん

安田教育研究所・安田理先生の

女子伝統校 魅力

のここが

駅やショッピングセンターの空間にピアノが置いてあり、誰もが自由に弾ける「ストリートピアノ」が全国的に広がっているが、東洋英和の校内には25台のピアノ・オルガンがあり、生徒が自由に弾くことができる。昼休みや放課後には専門講師の指導を受けられる。このほか校内でできる「習い事」の課外教室には、器楽科、日本舞踊教室、華道教室、英会話科がある。生徒が学園生活を楽しみ、明るくおらかなことが英和の一大特徴と言えるだろう。

